

インクリートカッター



ニッポン

発行所

東京都千代田区猿樂町1-4-3

三笠産業株式会社

電話 東京(292)1411 大代表

テレックス 222～4607
郵便番号 101

PR旬報 年4回発行

ブレード昇降に新機構
使い易さを増した

MCD II 22型

ながい間皆さまに親しまれてきたMCD $\parallel$ 2D型コンクリートカタナ $\parallel$ が久しぶりにマイナーチェンジを行いました。この度、新たに手を加えられたのはダイヤモンブレドの昇降装置で、2D型あるいはその前の2B型以来長い間使われていた方式に替えて、まったく別の方法を採用しました。従って見方によつては、単なるMCD $\parallel$ 2D型のマイナーチェンジと言うのではなく、新たな機種の特長とも称せましよう。リフティングフックもついた、新型コンクリートカタナMCD $\parallel$ 22型は三笠の小型カタナの中核として一層使い易いものとなりました。

小型コンクリートカッターMCD
しました

事等をはじめ広く使われだしたのが
 今を去る十一年前の昭和46年。
 12時のタイヤモンドブレードをつ
 て深さ10cmまで切込むことのでき
 同機のブレード昇降装置は、チェ
 ンとスプロケットを使ったもので、
 手許のレバーを動かしてスプロケッ
 トにチェーンを巻きつけたたり、引戻
 したたりすると、ブレードが上下して
 切込み深さの調節ができる。大変ユ
 ニークな機構を採用し、素早い昇降
 のは、昭和52年末でした。

このMCD-2D型は前述の設計変更により、主要部品については2B型との互換性がなくなりまして、プラットフォームはサイズアップされた14レートのダイヤモンドブレードを駆動付けることができるようになり、深さ12cmまでの切込み可能となりました。MCD-2D型に使っていたビンEY33型エンジンがモデルチェンジとして大変な人気を博した。このMCD-2D型は前述の設計変更により、主要部品については2B型との互換性がなくなりまして、プラットフォームはサイズアップされた14レートのダイヤモンドブレードを駆動付けることができるようになり、深さ12cmまでの切込み可能となりました。MCD-2D型に使っていたビンEY33型エンジンがモデルチェンジとして大変な人気を博した。



ンジされてEY35型と改まり、これを搭載したMCD-2DA型が昭和56年から今日まで生産されている。

昭和五十七年度
建設機械展示

の開催

主催 日本建設機械

設機械化協会

五月二十一日(金)～二十五日(火)

(西部開発内)

三笠製品を展示実演致します。

れています。

これまでの昇降装置と新しい方法の相違を少し詳しく説明しますと、今

までの方法は、カッターフレーム下側に取付けられ、前車輪のアームを固定しているスライク軸にスプロケットが付けられていて、このスプロケットと水タンクの右上側面のレバーに固定されているスプロケットがチェーンによって結ばれています。レバーを前に倒せばカッターの自重で前車輪が上がり、ダイヤモンドブレードは路面に切込みます。このときチェーンは下側のスプロケットに巻き込まれてゆきます。

レバーを上引上げると、チェーン

も一緒に引上げられて上側のスプロケットに巻き上げられ、ダイヤモンズブレードは路面から離れます。この方法はブレードの切込み、引上げが大変スピーディにできる利点があり、切断面に鉄筋等の障害物があった場合に、レバーを急速に引けばこれをよけてブレードを傷めずにすみます。しかしながらその反面、ブレードを切込ませてゆくときには、

コンクリートカッターの重量がレバーに働き、エンジン音を聞きながら少しづつ切込み深さを調整するようなどきには、扱いにくいと言われていました。いわゆる微量調整は熟練を要したわけです。

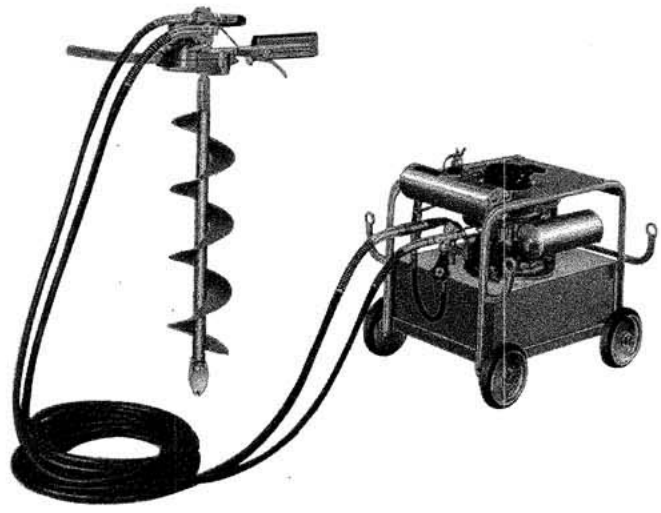
そこでMCD-22型の昇降装置には、レバー操作をやめて、機体後方の上部にあるクランクハンドルを回すだけで軽くブレードの昇降が行える方法にしました。

これは、前車輪アームが動いてカッターの機体が上下するのは同じですが、前車輪アームが連接棒(ロッド)でクランクハンドルの先端と接がれる、この個処がスクリユートとなっているので、クランクハンドルを回せばスクリユートが回転し、ロッドを引いたり押したりして、前車輪アームが上下に動き、タイヤモンドブレードの切込み、または引上げができるのです。

この方法はMCD-11U型カッターで採用しているのと同じ方法ですが、22型の機体は1U型より重いのので、クランクハンドルのレシオを変えてハンドル操作は軽く扱えるよう工夫

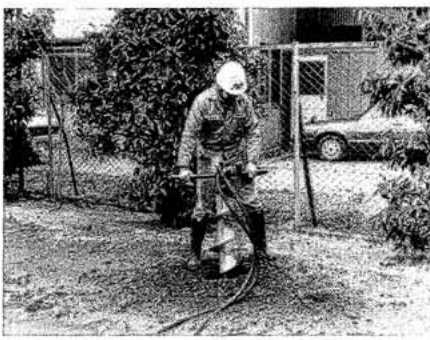
型式	MCD-22型
全長	1580 $\frac{\text{mm}}$ (指針を伸ばした状態)
全高	900 $\frac{\text{mm}}$ (指針を上げた状態)
全重	525 $\frac{\text{kg}}$
使用ブレードの寸法	930 $\frac{\text{mm}}$
最大切断深さ	118kg
最小切断深さ	245 $\frac{\text{mm}}$ (10°) 305 $\frac{\text{mm}}$ (12°) 356 $\frac{\text{mm}}$ (14°)
ブレード軸径	70~120 $\frac{\text{mm}}$
調節冷却	40~70cm/min(深さ50 $\frac{\text{mm}}$ の場合)
エ	27 $\frac{\text{mm}}$ (1 $\frac{1}{16}$ °)
	手動方式 切断深度上下調節 約130mm
	重力注水式 水タンク容量36ℓ
	ロビンEY35-D リコイルスターター付
	最大出力 8.5PS/3600r.p.m

深掘りに威力を発揮 油圧式アースオーガーに 正逆回転型登場



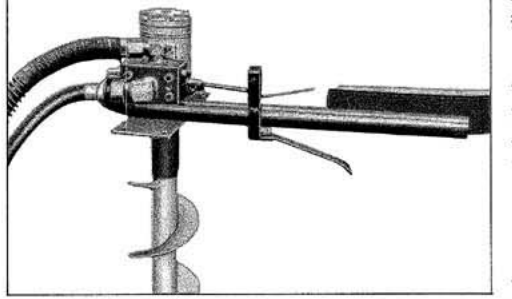
油圧で動かすMOE-30型ポータブルアースオーガーを改良して、回転方向を正回転・逆回転のどちらの方向にもレバーの切換えだけで思いのままにできる新型機ができました。

油圧式アースオーガーは、バールハンマーやボールハンマー等に使っているのと同じ油圧のパワーユニットを使っています。パワーユニットの油圧ポンプから送り出す油の流れでアースオーガーの油圧モーターを回して作動油を循環させているのです。油圧モーターの手前に切換バルブを置いて、手許のレバーでこれを操作し、油圧モーターの回転方向を正逆切換えできるようになっています。回転の切換えも大変スムーズで、回転



型全全	式高幅長	MOE-30型
		335%
		825%
		530%
オーガスクリ	連続スクリュウ式	
掘削口	80%~300%	
掘削径	5m~7m(口径100%にて)	
最大掘進	0~350r.p.m	
掘削回	油圧モーター式	
動方	内径12.7%×10m	
油圧ホースの寸法	14.5kg(ホース含まず)	

コンクリートカッター MCD-5SP型 ブレードカバーを改良



(中央の四角いブロックが回転を
切換えるバルブです)

三笠の数あるコンクリートカッターのなかで一番大きなMCD-5SP型のブレードカバーが変更され、より扱い易くなりました。

MCD-5SP型は最大出力25PSの水冷エンジンを動力源とし、昇降・走行も自動化された最新式の機構を持つコンクリートカッターです。機体全部をスッポリとハウジングで覆ってあり、三笠の実用新案になる防音装置、ジャバラ付のブレードカバーが装着されていて、切削音を拡散しない音の静かなことを大きな特長としています。

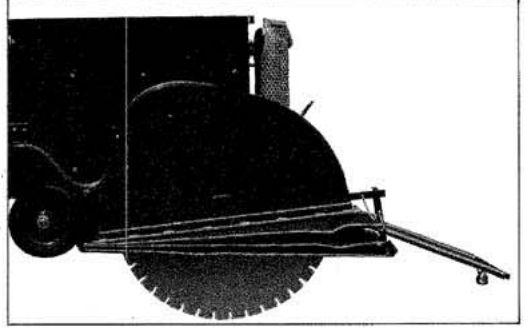
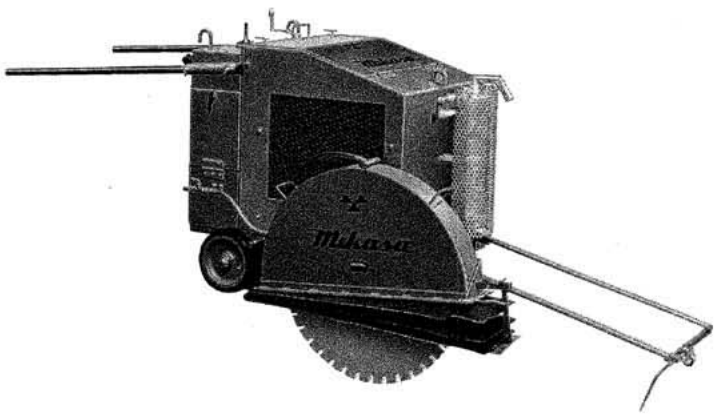
直径30寸の大きなダイヤモンドブレードを取付け、30cmの深さまで切込むことのできるプロ用カッターとして各地でご利用頂いております。

このMCD-5SP型のブレードカバーが写真のように変りました。

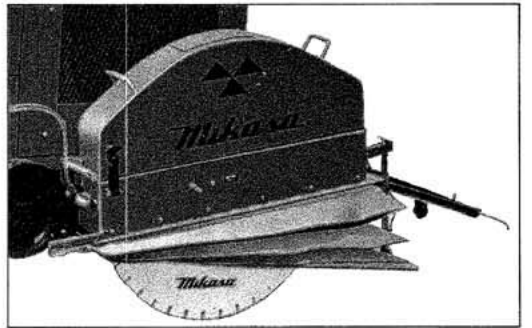
この度の改良を加えられたところは、ブレードの取付けならびに取はずしが今までに比べて容易になったこととしてブレードカバーそのものをカッターに装着したり取はずしたりすることがやり易くなったと言うこの二点です。

この新しいブレードカバーは、従来のMCD-5SP型にはそのままで取付けられませんが、ご使用中の5SP型の機体に取付け金具を溶接して付けられ、改良されたブレードカバーを取付けてお使いになれます。詳しいことは三笠の営業部にお尋ねください。

新型ブレードカバー付のMCD-5SP型コンクリートカッターは既に生産に入っており、ご用命をお待ちしています。



(上が新型のブレードカバー、下は従来のもの)



職場を訪ねて 三笠建設機械(株) 中部出張所



名古屋の歴史は日本武蔵が東征のみぎり、草薙剣を祀った熱田神宮の創建にまで遡るのだそうです。

「名古屋」と言う地名に定められたのは明治3年とか、それまでは古くは那古野、那古屋あるいは名護屋というように記されていたものの本には書かれていません。

明治維新の後、新政府が廃藩置県を

名古屋の歴史は日本武蔵が東征のみぎり、草薙剣を祀った熱田神宮の創建にまで遡るのだそうです。

「名古屋」と言う地名に定められたのは明治3年とか、それまでは古くは那古野、那古屋あるいは名護屋というように記されていたものの本には書かれていません。

明治維新の後、新政府が廃藩置県を

行方不明に、尾張藩は名古屋(翌明治5年愛知県と改称)となり、明治22年10月に名古屋が誕生しました。当時の人口は約15万7千人と

言われています。それまでの徳川時代には親藩として栄え、そのかみには天下統一の偉業を成した戦国の英雄織田信長、豊臣秀吉を生んだ土地でもあります。



地理的には伊勢湾の奥に位置し、濃尾平野を背後に控える日本第三位の大都市。戦後、いち早く復興都市計画に着手。将来を見通して市の中心部には幅の広い道路を造り、平和公園へ墓地を移転するなどの大事業が行われ、今日の名古屋市の基盤が確立されました。只今のよう自動車普及が著されているのは、名古屋の街を見ながらのことは、名古屋の道路が一きわ広々と映ったものでしたが、自動車の交通量が昔とは比較にならない程に増加した現在では、都市道にのるを市当局の先見の明に敬意を表します。

昭和32年日本で三番目の地下鉄が開通し、産業の発展も著しく進展し、それまでの軽工業から重工業への転換が進み、名古屋港臨海部の埋め立てにより、大規模な工場が進出して名古屋市は名実ともに中京工業地帯の中核となりました。昭和34年には(名古屋駅の夜景)



男子三名で始まり、年々売上額も上界の一途をたどり、昭和50年12月に同じ町内の則武一(九)四に新築されて、百八十六平方メートルの敷地内に二階建ての延べ百五十一平方メートルの社屋が建てられました。建物の一階はショールームと倉庫に分かれ、倉庫には建物の内と外で使用出来る1.5電吊りのジブクレーンが設置され、出荷作業に万全を期している。尚、二階は冷暖房完備の事務所販売並びにサービスの拠点です。村川所長をはじめ現在総員七名で、愛知・岐阜・三重の三県を担当しております。この中京地区は、関東の南と関西の南の中間となり非常に商売のしにくいところと聞いておりますが、中部出張所の方は、すっかり地元になじみ、行動力に富み徹底したPRとときめ細いサービスをモットーにゆるぎない地盤を築き、愛される三笠として、全員の努力と中部地区三笠代理店の皆様をはじめ、ユーザーさんの暖かい御支援により、将来への一層の飛躍を期待いたします。

鈴木記



(名古屋市内の100メートル道)

香港のニュートリリーでは工業団地やニュータウンの建設が盛んに行なわれている



予約をとっていたミラマホテルに到着後、明日からの仕事の打合わせを済ませ、現地代理店H社の方々と

二月十日、肌寒い成田空港をキャセイ航空五〇一便は一路、香港に向けて離陸した。機内は我々ビジネス客をのぞいたところ、ほとんどは団体客等ではほぼ満席の状態であった。小柄な、そしてチャーミングなスナース・チュワードスの飲み物のサービスを受けている間に五時間弱のフライトもあつたという間に過ぎてしまい、山の中腹や、海際に林立するビルの中腹や、空港に着陸した。予想に反して肌寒ささえ感じられ、どんよりとした空からは雨も降り始めていた。

香港

東南アジアの中でシンガポールと、二を競う香港は危険な土地に高く聳え立つビルディングがマツチし、目抜き通りを走る二階建バスや電車等、本当に外国情緒豊かな国である。また夜ともなれば色とりどりのネオンサインが百万ドルの夜宴を醸し出す様は、一度でもこの国を訪問した人なら真にロマンチックな旅情を感じるのでないだろうか。

近代化への道を一步一步進んでいる中にも相変わらず古い街並を残すこの国は、我々にとって最も親しみやすい国のひとつではないかと思った。滞在四日間、曇天と寒さにたたられた私たちは、日頃のお行いの悪さをお互いになすりあいながら次の訪問地へと向った。

シンガポール
新国際空港に衣更え中のクアラル

それだけに豊川稲荷をお祭りしてあり、毎年二月の初午の日は盛大であり、初午祭を祝っておりますが、どうしてわが社で豊川稲荷をお祭りするようになったかという、社員でも多少古手の人でないと正確には知らないようです。そこで京谷会長が昭和四十六年一月八日発行の三笠ニュース第三十二号に寄稿した文章の一部をもう一度掲載して、そのあたりの事情を御紹介したいと思います。

どうしてわが社で豊川稲荷をお祭りするようになったかと申しますと、最初東京板橋に工場を設けた時、什器を買付けたいと思ひ、近くの道具屋を訪ねました。するとふとそこに埃まみれになっているお社を見出したのです。そこでこのお社は売物です。すかたらずねますと道具屋の主人は

このお柱と、この手に入れたかと思
いて見ますと、このお社は深川の或
る材木屋に祭られていたものだが、
その材木屋が没落してお社までも売
り払ってしまったのだということで
した。余り縁起のよいお社でもなさ
そうに思いましたが、それにしても
こんなところに放り出されてはいな
いお社の中の神様もさぞ浮かばれな
いだろうと思って、いくらだったか価
格は忘れましたが、他の机や椅子な
どと一緒に買求めたわけです。

ところが、お社は買ったものの肝心
の御本体がなくては、どうにもなら
ないので、工場のこのだから前々か
かお稲荷さんにしようとは思ってい
ましたが、お稲荷さんといっても、
伏見あり、豊川ありでさてどに
たものかと思索していました。する
と今は亡くなった村松事務が、豊川
さんなら私も幾度かお詣りしたこと

と主君さんの御本位は、百利事
に主君さんのお心にかかるとい
われ、またトヨケヒメノカミ
オオケツヒメノカミ(保食神)など
と同一神であるともいわれています。
「保食神」の腹中に「稻生れり」とい
う伝説にもとずき「稻生る」がいっ
か「稻荷」となったの説もありま
す。この神を仏教では**呬枳尼真天**と
呼んで、何れも我々日本人には欠く
ことの出来ない米づくりの神であり
ます。

京都の伏見稻荷へ詣でますと、先
塗のお社の中で祝詞をあげて呉れま
すので、いかにも神様らしい感じが
しますが、そこへゆくに豊川稲荷の
方は、お寺でお経をあげられるので
仏様のような気がして、一体お稲荷
さんは、神様なのか、仏様なのかと
まどろう人もあると思います。し
しそれは、当時神仏混淆の時代であ

豊川稲荷は、今から凡そ七百年ほど前、妙厳寺の乗厳善戸禪士という方が、仏法修業を終えて、中国（當時の南宋）から帰国の途中、海上に叱枳尼真天が稲穂を荷い白狐に跨つて天降り、この布教を禪士に托されたので、これを妙厳寺の守護神としてお祭りしたものだとのことである。お稲荷さんという、狐を祭っているのではないかと思う人が多いようですが、以上のような由来によつて祭られているわけです。狐の中でも一般の狐のことを野狐と呼び、お稲荷さんのお使い役としてお側のお守りを勤めている狐を白狐といえます。ですからお稲荷さんのお社の面々きには何時も白狐が控えているわけです。

私は常に、会社の隆昌発展と社員の方々の無事息災を願うことを、当

(研究所の初午祭の模様)

杯も何杯もお代わりをした。満腹感で一杯となった私達は帰路、ナイトツア一帰りの日本人団体客とホテルの入口で会ったが、それぞれにお土産の袋をぶらさげており満足感に加えてタイトなスケジュールに依る疲労感も伺えた。一夜明けた翌日もまた曇り空に加え寒い一日となった。

最近の香港はニューテリトリーと言われる中国本土との境界近くや、沙田(サティン)、大埔などの地区でパイパス工事、導水トンネル工事、一般住宅建築などの工事が日本業者や現地住宅業者によって急ピッチで進められている。特に日本業者の進出は地元業者のみならず欧米の業者にとって脅威となり今後共、海外に於ける工事は益々厳しい競争下に置

どの多くの人種が暮している国である。

自由な貿易政策をとっているこの国で、世界の一番の魅力は何と云っても、世界中の品物が安く買えることで、香港と同じように外国人の観光客が多いのには驚かされる。中でも日本人が多く、我々が泊ったホテルでもボーイに客はオールジャパニーズだと言われた時には喜んで良いのか一瞬複雑な気持ちになった。

約三週間の出張も無事終わり、飛行機の窓から見える美しい光の街路図と澄んだ夜空の星の輝きに目を奪われながらJAL七二便は成田に向った。

最後にこの出張でお世話になりました代理店及び商社の方々に厚く御

私が出勤の途中に通るコースで好きなところは、三宅坂から緩いカーブを描いている桜田門までのお濠端の景色である。遠くに林立する高層ビルの群を望み松の緑が皇居のお濠に影を映す。となるかあまりにも絵葉書みたいになるが、東京を代表する風景の一つには相違ない。

皇居の真向い国会議事堂の前に憲政記念館と言う館物がある。近づいて看板を見ると憲政資料展示室、憲政記念講堂、尾崎メモリアルホール

祭について

お売りしてもよいというので、一体

ロープを歩いて行くのが見えるきりでその他には人影は見当らない。華段ならば耳を聳する自動車の騒音もない。若しも目かくしをして突然どこで開放されたら、ここが東京の中心であるとは暫くは判らないかもしれない。

ここはその昔、桜田門外で水戸の浪士等に襲われ落命した井伊大老の屋敷跡で、明治になつてから参謀本部がおかれていたところ。我が国の議會開設八十年を迎えた記念として

があつてよく知っているから、直ぐにでも出かけて行つてお札をいたがいてくるというところで話が纏り、暫く豊川稲荷をお祭りにすることになつたのです。

憲政記念館の庭園を歩いていると土蔵のようなものがある。近づくとも日本水準原点と読めた。日本の国土にここに設置されたそうだ。土蔵のような建物の隣りに日本水準原点についての説明文が黒い大理石の板に刻まれている。水準原点の位置はこの建物の中にある台石に取り付けた水晶板の零線（の中心）で、標高 24.410m。この値は東京湾の平均海面から求めたそうである。

然の勤めであると考えておりますので、何時も心ひそかにこのことをお願いし、一年に一回の初午の日をお祝ひ、稲荷さんへの感謝の日として、社員と共にお互いの幸福を祝福し合つて

食器のガチャガチャという音、まるで蜂の巣をつついたような賑やかさであるが、私の耳には彼等の喋っている言葉はホニャラホニャラとか聞こえない。おいしい本場の中薬料理を食べながら香りの良いジャスミン茶がまた格別で、小さな茶碗に何

東人、海南島人など、これら中国人は、農民から実業家にいたるまで、近代のシンガポールの富の大部分を築きあげ、経済的にも確固たる地位を保持している。この中国人がシンガポール人口二三〇万の約八〇％を占め、他にマレー人、インド人などを

城と言った方がなんとなくピッタリするのではないかと思うが、タクシラーの運転手か宮城前までと言っただけの運転手か神宮ですとか聞き返されたと言っ話がある。宮城は球場を連想するそうだから皇居と言っのが本当なのでしょう。

とある。

自動車は正門から入るようになってるので、裏門には車両進入禁止の標識が立っている。歩いて入るのだから遠慮なくここから入る。

私の前をよその国の男の人がビテオカメラを積んだカートを引きながらゆつくりと庭園の中央に通じるま

しょう。私も皇居のお濠から桜田門を入ってシャッターを切る。フアイェンダーから覗く見えた景色がなぜか知らない場所のように見えてくる。今日は日曜日で自動車が少ないせいであつたと気付く。車さえなければ東京もまんざらでもない。

A black and white photograph showing a park-like setting. In the foreground, there is a dark, rectangular stone monument or plaque. Behind it, a paved path leads into a wooded area with many trees. A small, square stone structure is visible in the distance. The lighting suggests it might be late afternoon or early morning, with long shadows.

一緒に夕食となった。ある一軒の中



レーア航空六五便でシンガポールに飛ぶ、シンガポールは約四十分のフライトであった。

飛行機の窓からマレー半島の南端にある菱型の島シンガポールのチャングキョ港が見えてくる。この空港は昨年七月一日に開港した新国際空港である。成田空港以上の規模を誇るこのエアポートは建物の大きさと云々い、美しさといふ言葉では言い表せないほど素晴らしい空港である。

シンガポール全体がこれが東南アジアの都市中と驚くほどの美しい街で、市内中どこに行っても緑の芝生と熱帯の木々が青々と茂り、島全体が近代的な公園都市といった印象を与え、ガーデンシティーの名に相応しい清潔な街であった。

この国の人はほとんどが中国南部

日頃なにげなく見過している場所
や風景もときには違つて見える。
朝夕の通勤ラッシュの時間には気付
かずに通り過ぎてしまふものも、改
めて見直すと新しいものを発見した
ような喜びすら感じる。

会社の屋上から見渡して最も大きなものはそれは千代田の宮居 皇居である。皇居を中心としてその周辺から歩きまわり次第に探訪の輪を拉げてゆこうと思いたち、日曜日の午後カメラ片手に出かけた。

記



第1回

憲政記念館

念館が設立され、昭和四十七年三月に開館された。今年でちょうど開館十周年を迎えたことになる。

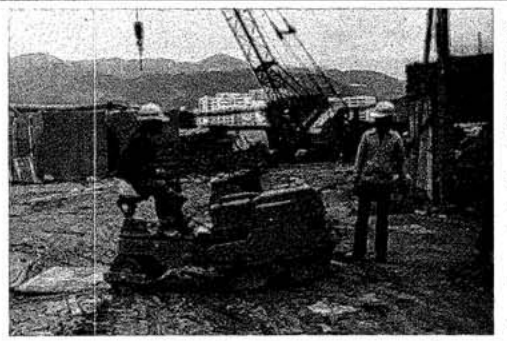
この辺を国会前庭北地区と言うののだそうで入場される方は次の事を空けて下さい。という衆議院の掲示がいかめしく掲げられ、守らない方には退去を命じますとある。そのなか中に写真撮影をしないこと、という文字があったので、その昔の防護法とやらもの亡霊がまだ生きているのかと一瞬ギョッとしたが、心を落ちつけようとして「業」として写真撮影をしないこと」となっていた。

庭園のなかほどには時計塔とコンクリートの四角い池がある。池のそばで先程の外人がビデオカメラであたりの風景を撮影している。さぞか

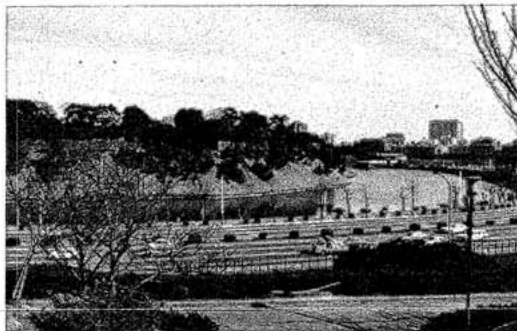
下を眺めたら、なんとこの下には首都高快速道路の霞ヶ関トンネルがあったのだ。いつも前方を注視しながら地下を走っていたが頭上にはこんなところがあったとは知らなかった。トンネルを出て三宅坂ICへと走り去る自動車の流れを上から見ていると、それはまるで無限に尽きることのない動きのようで地上のこの美しい風景を見ることがなく動き回る生き物のように思われてくる。

気が付くと辺りにはまったく人影がない。日頃騒音のなかで生活していても誰もいないあまりにも静かな場所はかえって腰が落ちつかない。カメラを持っていてもとがめられる気づかいはあるまいが、退去を命ぜられないうちに早々に門外に退出することにした。

森記



（香港で活躍するナインローラー）

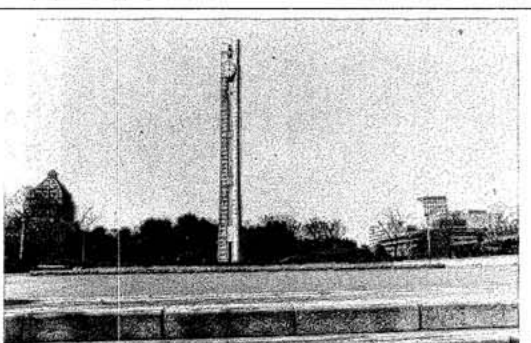


(三宅坂から丸の内方面を望む)

わが街
カメ
ある今
記

A black and white illustration of a man in a suit and tie, holding a camera up to his eye as if taking a picture. In the foreground, a dog is lying down, looking up at the man. The text 'わが街' is at the top, and 'カメ' is written vertically next to it. Below that, 'ある今' is written vertically, and '記' is at the bottom left.

第1回
憲政記念館



(時計塔の向うに議事堂が見える)

念館が設立され、昭和四十七年三月に開館された。今年でちょうど開館十周年を迎えたことになる。

この辺を国会前庭北地区と言うののだそうで入場される方は次の事を空けて下さい。という衆議院の掲示がいかめしく掲げられ、守らない方には退去を命じますとある。そのなか中に写真撮影をしないこと、という文字があったので、その昔の防護法とやらもの亡霊がまだ生きているのかと一瞬ギョッとしたが、心を落ちつけようとして「業」として写真撮影をしないこと」となっていた。

庭園のなかほどには時計塔とコンクリートの四角い池がある。池のそばで先程の外人がビデオカメラであたりの風景を撮影している。さぞか

下を眺めたら、なんとこの下には首都高快速道路の霞ヶ関トンネルがあったのだ。いつも前方を注視しながら地下を走っていたが頭上にはこんなところがあったとは知らなかった。トンネルを出て三宅坂ICへと走り去る自動車の流れを上から見ていると、それはまるで無限に尽きることのない動きのようで地上のこの美しい風景を見ることがなく動き回る生き物のように思われてくる。

気が付くと辺りにはまったく人影がない。日頃騒音のなかで生活していても誰もいないあまりにも静かな場所はかえって腰が落ちつかない。カメラを持っていてもとがめられる気づかいはあるまいが、退去を命ぜられないうちに早々に門外に退出することにした。

森記



(日本水準原点のある建物)

小憩の後、遂に其の時は来ました。笠友会の美しい伝統、すなわち宴会主、親光従の本会のメインイベントである宴会の時がやって来たのです。飲む程に、酔う程に、一年間の空白は忽ち埋められ、会員同志の親睦の度は最高潮に達し、其の余勢を駆つ

地方課 近藤記

展をお祈りいたします。

多数来場され、当社より出品した高周波バイブレーターを始め、TR-80H型ランマーや各種軽便バイブレーター等、多数の御成約いただいた事は偏に橋爪商事(株)の常日頃の御努力の賜物と感謝しものです。

永年にわたり三笠製品の販売に協力をいただいております橋爪商事(株)さんの今後益々の御健闘と御発展を心より御祈り申し上げます。

仙台出張所 菅原記

の
し
二
一
示
て
数
上
ま

両祝賀会には弊社より岡田所長が出席しお祝いを申し上げました。両営業所ともいかなるお客様に要望にも対応できるよう豊富な製品在庫で即納体制を整え、地元に着実に販売を展開されています。新社屋落成を機に金剛建機販売㈱さんの今後益々の御発展を心からお祈り致します。

三笠建設機械㈱
九州出張所
江口清人記

講習会開催

弊社の長野県
於ける代理店双
工業(株)さん(松
市芳野町)のお
折りで、去る二
十五日長野営林
関係の仕事をさ

れ、三笠としては高周波パイプレーターを使用した場合とコンクリートに与える効果について説明した。そして昨年三笠がユイザーさんと共に開発した法面の気泡抜きパイプレーターの現物をお見せしながら使用方法及び使用結果の報告を行なった。

地方課 長畑記

である業者は、
 対してインペー
 ー及びファンベ
 レーターの講習
 を開催した。
 当日は長野全
 にわたる業者さ
 百二十社の集ま
 で、そのプログ
 ムの中にパイプ
 ーターの適正な
 用方法及び堰堤
 側溝のコンクリ
 の法面パイプレ
 ーの検討会があり
 いて検討会があり
 パイプレーターメ
 使用方法等につい